

http://www.labornetjp.org
レイバーネット
 日本から世界からはたらくものの
 情報ネットワーク

Newsletter

No. 45

2011年10月25日

発行 レイバーネット日本

〒173-0036 東京都板橋区向原 2-22-17-108

http://www.labornetjp.org

labor-staff@labornetjp.org

電話 03-3530-8588 FAX 03-3530-8578

10回目を迎えた「レイバーフェスタ」

ひどい世の中と文化でたたかおう！

チェルノブイリに匹敵する放射能汚染国になってしまった日本。2011年3月11日以降、私たちの社会は根本から揺さぶられています。職場も非正規・派遣が蔓延し、解雇も当たり前。こんなひどい中でも、変化のきざしが見え始めています。「原発利権社会ではなく安心して生きられる脱原発社会に変えよう」と人々が本気で動き始めたのです。期せずしてニューヨークでは、「格差社会はもうゴメン！雇用・医療・教育を返せ」と「ウォール街占拠運動」が起きました。

10回目を迎えた今年のレイバーフェスタ。テーマはずばり「原発とたたかう文化」です。歌・3分ビデオ・川柳、あなたの得意な分野で参加して下さい。プログラムも、韓国映画「希望のバス」・朗読・構成舞台「原発労働者」・ライブ えぐれ笹島・樋口健二「被ばく労働・最前線」など今年もてんこ盛り。原発御用大賞発表、「制服向上委員会」出演もあります。

さあ12月4日は、東京・新大久保アールズアートコートに集まりましょう！（プログラムなどはチラシを参照してください）

「3分ビデオ・歌・川柳」大募集！

2002年の第一回レイバーフェスタから始まった目玉企画「3分ビデオ」も10年目。そして、歌・川柳と参加型フェスタはジャンルを大きく広げました。フェスタは見るだけじゃつまらない。なにかつくって参加しなくては。ぜひ、皆様のご応募をお待ちしています。

●3分ビデオ
 =仕事のこと、生活のこと、社会のこと、言いたいことを3分の作品にまとめて下さい。今年は特に「原発」「ユニオンと若者」をテーマにした作品歓迎です。

●原発ソング・レイバーソング
 =あなたの作ったうた大募集！5分以内の作品音源（替え歌、



10月15日、「オキュパイ・トウキョウ」（六本木）

オリジナルどちらでも）をお送りください。

●ワープア原発川柳=今年の選者は、文芸評論家・棚沢健さん（『だから、鶴彬一抵抗する17文字』著者）。「むかつく川柳賞」「落書き川柳賞」は、果たしてどなたの元に。ひとり3句吐（1句から可）。以上、すべての申込みはレイバーネット事務局まで。最終締切は、11/25（金）必着です。

★賛同人になって支えてください

フェスタには多額の出費がかかります。財政を支えてください。個人一口1000円・団体一口3000円。賛同人にはチラシ折り込み・ブース出店など特典もあります。

レイバーネット TV 放送予定

第20号放送「JAL解雇争議」（10/6）、第21号放送「TPPってなに？知らないうちにハゲタカの餌食」（10/20）と好評のうちに配信してきました。11～12月は、11/3・11/17・12/1・12/15（毎月第一第三木曜 午後8時～9時半）の予定です。番組内容はまだ未定なので、メーリングリストやウェブサイトにもアップしていきます。ホットで大事なテーマを取り上げていきたいと思っておりますので、企画・意見・情報などお寄せください。日程は変更もありえます。今期のレイバーネットTVは12月で一度総括し、2012年に臨みたいと思っております。

STOP
 原発とたたかう文化
 レイバーフェスタ
 2011
 12/4
 10時～18時
 R'sアートコート
 東京都板橋区向原 2-22-17-108
 TEL 03-3530-8588
 定額 一般 2000円
 学生 1000円
 障がい者 500円
 主催 レイバーネット日本 2011 実行委員会 事務局 03-3530-8588
 共催 東京都労働局 東京都労働センター 東京都労働者センター
 協賛 東京都労働局 東京都労働センター 東京都労働者センター
 協力 東京都労働局 東京都労働センター 東京都労働者センター
 後援 東京都労働局

文化運動の可能性

木下昌明さんの批評集を手がかりに

東 洋志

9月28日、レイバーネット例会「文化運動の可能性」がスペースたんぼぼで開催され、約30人が集まった。内容は濃く、レイバーネットの活動を考える上でも重要な集いになった。以下、報告者の東洋志さんに報告ポイントを寄せてもらった。(編集部)

木下昌明は、文化運動の解体状況に抗して、約40年もの間、映画批評運動を展開してきた。まずその持続力に驚かされる。それだけではない。左翼「懐メロ」に陥ることなく、あくなき時代のアクチュアリティ追求の姿勢にも感心させられるのだ。常に、その時代の課題と正面から対峙し、2000年代に入っても、一方で軍事化の流れに抗し、他方で新自由主義の嵐に批評の力で抵抗してきた。そのなかで握って離さなかったのは「労働と生活」の視点だ。本書のグラントリノ批判にその特徴は集中的に表現されている。

私が木下の近著「映画は自転車にのって」で注目したのは、その文化運動論である。彼は3分ビデオに着目し、そこに新たな段階の「創り手と受け手の連関」、誰でも創造者になりうる可能性を追求している。「受け手の組織化」の視点、創り手と受け手の弁証法的な連関の追求がそこに見られる。そして自らの労働現場の問題を「普遍化・社会化」していくことを読者に提起している点が重要である。さらに、これは本書だけの特徴ではないが、木下がレイバーネットを拠点に、ドキュメンタリー作家との批評活動とおした共同、労働運動と文化運動との共同を実践していることの意義深さも強調しておきたい。木下の提起は歴史的に見るなら、ブレヒト、花田清輝らの芸術運動論の今日的継承、具体化という側面をもつ。その意味では、今度の木下の提起は、戦後の芸術運動の最良の遺産を引き継いでいる。

私が注目したいのは、木下のそうした文化運動論が「労働運動の新たな展開」をふまえた現代的提起となっている点である。私は木下の批評活動やレイバーネットの活動に、この10年間に台頭してきた新たな「社会的労働運動」(国労闘争団、ユニオン運動、企業の枠を越える労働運動など)と文化運動との結合を見る。映画『人らしく生きよう—国労冬物語』『ツターの仕事がしたい』などの傑作は、まさに企業内労働組合と異なる少数派労働運動が、現場で直面した問題を普遍化した作品群であった。新自由主義の嵐のなかで、現代の戦闘的労働運動は少数派からの出発を宿命づけられている。時に1人の立ち上がりから出発する。そうした少数の運動当事者を支援し、その立ち上がりを社会化することこそ、社会的労働運動の特徴だったのではなかろうか。それが大きなうねりとなったのが、2000年代のユニオン運動、反貧困運動だったと思われる。

そして松原明、佐々木有美、土屋トカチら文化活



レイバーネット例会(9月)で報告する東洋志氏



動家の作品群は、その過程に介入し、当事者の人間ドラマ(悩み、模索しつつ闘いを継続する人たちの人間像)を描き、彼らへの深い共感のなかから、運動の社会化・普遍化への過程をさらに豊かにしていったのではなかろうか。そうした活動に寄り添い、批評運動を展開しつつ、文化活動家の今日的役割を提起したところに木下の重要な役割があったと考える。今後、労働運動と文化運動が共同して、多数派形成への回路が探求される必要があるのではなかろうか。

いま労働運動は、その困難の打開、再生のために、新たな労働者教育(労働者の主体形成)の探求、模索を迫られている。そのなかで従来の注入型労働者教育が批判され、対話型参加型教育が提起されていることは意義深い。その内実のさらなる探求・深化が求められている。そしてこの対話型教育のなかでこそ、「考える材料としての映画」という方法を探究してきた木下の映画批評、文化運動論は大きな役割を果たすのではなかろうか。ここにも、労働運動と文化運動との共同の今日的な形態が、その可能性とともに示されている。(東京自治問題研究所研究員)

<レイバーネット TV> 大阪「教育特番」裏事情 さまざまな人々との出会いの中で

9月23日、レイバーネットTVは初めて東京のスタジオを飛び出し大阪から教育特番<「君が代」で立たないとクビ! 橋下はん、あんまりだっせ>を放送した。放送中は、ツイッターの反応も活発で、番組は成功裏に終了した。10月21日現在、アーカイブのアクセス数は1533になった。この問題への関心の深まりを感じる。

さて、今回はこの番組の実現過程について書きたい。今年の2月、レイバーネットTVは、教育特番<窒息寸前! 学校現場 東京・なう>を放送。大阪の教員・辻谷博子さんに出演していただき、その後も交流が続いた。6月に辻谷さんが上京され、橋下知事の教育基本条例問題で10月に大阪で全国集会が開かれるので、レイバーネットの皆さんにもぜひ参加してほしいと要請された。私は集会に参加するだけでなく、橋下知事の暴走をストップするために何かできることはないかと思い、レイバーネットTVの現地放送を思い立った。

スタッフの了解も得て、さてスタジオ探しにかかったが、適当な場所が見つからない。ある集まりの二次会でその話をしたところ、川柳の乱鬼龍さんが全日建連帯労組の協同会館アソシエを紹介してくれた。アソシエは新大阪駅近くで便利もよく、何より広々としたスペースが使えるのが魅力だった。(写真) 超低料金で宿泊もさせてもらった。

もう一つの心配はスタッフ態勢だった。東京からは3人(出演者含めて5人)しか行けない。そこで手を上げてくれたのが、会員で名古屋在住の木村ジョウさんだった。当日は午後8時放送開始なのに、



アソシエからTV中継

午後2時には会館に到着、準備にあたってくれた。24日の全国集会も木村さんの協力でユーストリームが成功。テレビと集会中継で大阪の教組の人々の間にもぐっとインターネットTVの存在が身近になったようだ。集会では多額のカンパが集まり、交通費もほぼ補うことができた。

さまざまな人々との出会いと支援で今回の放送は成功した。個人の思いつきで始まった番組だったが、収穫は大きかった。インターネットTVは無数の可能性を秘めている。これからもフルにこの可能性を追求していきたい。

(レイバーネットTV 佐々木有美)

あなたが選ぶ「原発御用大賞」コンテスト

福島原子力発電所から放射性物質が拡散して以来、無責任な発言をする大人が目立った。私たちが、どうやったら健康やいのちを守れるのかと必死になっているところへ、まるで専門家と言えないことを口走る。

自分の仕事を失ってまでも、原発の危険性を訴え続けた俳優もいれば、逆に原発行政や電力会社に踊らされてきた著名人もいる。これまでも、メディアで、無責任発言した多くの人たちが批判されてきた。簡単に忘れてはいけません。忘れさせてはいけません。

レイバーネットTVでは、これらの人々を「御用人」と呼び、私たちに翻弄させ不安にさせ、間違った情報を信じさせたその責任を、直接問います。この人は「御用人だ!!」と思う代表的な人は、自薦他薦を問わず一か月の間、一般公募します。部門を御用学者部門、御用文化人部門(タレント、芸能人等含む)、御用政治家部門に分け、ひとりずつ候補をあげてください。票が多く集まった上位10名から投票し、それぞれ高得点の方々に以下の賞を差し上げます。

各部門から、金賞(全身御用賞)、銀賞(ずっぱ

り御用賞)、銅賞(べつたり御用賞)を選出し、全体で大賞をひとり選出します。表彰式は、受賞者に直接お渡しする突撃授賞式を予定しています。また、個人だけでなく、団体でも御用団体として輝かしい実績のあるものは、御用団体としてその無責任を表彰します。



●一般公募開催期間

2011年9月1日(第17号放送)～10月20日(第21号放送)

●投票期間 2011年11月3日(第22号放送)～11月17日(第23号放送)

●表彰期間 2011年11月18日～11月30日

●映像発表 2011年12月4日(レイバーフェスタ・新大久保R'sアートコート)

専用サイト <http://goyotaisyo.exblog.jp/>

新入会員紹介

●ロートルですがよろしく！ 金原 勝

伊豆の玄関口の三島で、三島ふれあいユニオンという田舎ユニオンをやっている金原です。地方反戦派(反戦青年委)～総評解散反対・日教組分裂～独立系教組の結成と、激動の時代を息を切らしながら末端で走ってきました。田舎ユニオンの活動が最後の勤め！かと思えます。「総評ダラ幹・ナンセンス！」と叫びながら、いまにしてみれば、総評ありせば、非正規もこんなに増えなかったかも、福島原発もあすこまで暴走させなかったかも、全国の原発再稼働阻止で1時間程度の統一ストくらいは打っていたかもと、夢想するロートルです。よろしくお祈りします。

●脱原発の国民投票をめざして 河内謙策

私は、このたびレイバーネットに参加させていただいた河内謙策と申します。私は、原発問題が重要な問題であることを薄々知りながらも、多忙にかまけて、原発問題を避けてきました。恥ずかしい話です。しかし、今回の福島第一原発の事故は、そのような私を直撃しました。私は、「脱原発の国民投票をめざす会」を立ち上げ、脱原発を実現する究極的な解決策である国民投票を日本で実現しようと訴えています。国会請願署名に協力いただいた方は、1万名を突破しました。私は、2012年が、日本が脱原発に向かうかどうかの“関が原”だと考えています。よろしく、お願いいたします。

●権利を主張していいんだ！ 本屋敷あい

レイバーネットの皆さん こんにちは、本屋敷あいと申します。レイバーネットのMLやTVを通して生きる権利のために「たたかって」いるんだ、当たり前権利を主張していいんだ！と知りました。小泉政権以来、政治について考えさせられる機会があり、当時フリーター生活から「生きるための労働」と「生きがいのための労働」について考えていました。この3・11震災・原発事故でさらにこの国の？な姿勢を目撃している毎日うんざり～自分の意見をあまり言える方ではありませんでしたが、皆さんの行動力を参考に、この不条理な世の中に「NO」と言い行動したいです。宜しくお願いします。

●バントヒットを狙います 岸本伸一

はじめまして、岸本伸一と申します。大阪の某私立高校に勤めています。みなさんご承知のとおり、教育現場でも有期雇用が蔓延しています。多くの私学では、典型的には「1年契約で更新2回まで」という有期雇用の常勤講師が次々に使い捨てられています。僕自身は、現在勤めている学校に常勤講師として雇われ、そして、なんだかんだあって、結局、勤務3年目に雇止め解雇通告を受けました。ユニオンの力を得て、それを撤回させることはできましたが、有期雇用を撤廃させるまでには至っていません。そこで、現在、労働委員会に救済申し立てを行っています。詳細は大阪教育

合同労働組合のHPをご覧ください。ホームランは難しいので、バントヒットを狙います。(大阪教育合同労組)

●「組合活動差し止め裁判」に取り組み中

衣川清子

19年間専任教員として勤めた埼玉女子短大(学校法人川口学園設置、埼玉県日高市)を「学生にお菓子を配った」「学長を批判した」等の理由で解雇され、裁判を闘ったものの「学生からの信頼が厚いことと教員としての適格性・協調性欠如は両立する」として解雇有効となりました。それでも納得できない、と組合で団交申入れをしたり、学園前や短大最寄駅で宣伝していたら、逆に学園から営業妨害だとして訴えられました。「団交申入れ無期限禁止」「一定期間宣伝禁止」の仮処分決定が出たあと、本訴に移行。最近「川口学園事件を考える会」が立ち上がり、院内集会を開くなど、「組合活動差し止め裁判」に本格的に取り組み中です。



●おかしいものはおかしいと言える勇氣

真鍋はるみ

はじめまして。私は2年前にリストラで係長から契約社員に格下げされました。自分では「おこり損リストラ」と呼んでいます。係長時代の私は、会社の危機下でも、だれた社内の空気に苛立ち吠えては、浮いていました。孤立している人間の評価が低いのは当然です。ですから会社と闘う気持ちはありません。けれど、反省などしていませんし、今は独立して生計を立てるべく、自己啓発に励んでいます。ただこれも一種の「現実逃避」なのかもしれません。自分のことは歯切れが悪くなりますが、レイバーネットを通じてもっと広い現実を直視し、おかしいものはおかしいと言える勇氣を忘れないようにしたいです。どうぞよろしくお願い致します。

●楽しむエネルギーを取り入れたい 金子恵子

今まで何度かレイバーフェスタや映画祭を見て楽しんできました。けれど年金暮らしの私が今さらレイバーネット会員でもないでしようと思っていたのですが、この度入会しました。送られてきた冊子をパラパラとながめながら、「フツの仕事をしたい」や三分ビデオを見たときの衝撃やおもしろさを思い出しました。私も長い間労働組合員として過ごしてきたのですが、ねばならないとは思っても楽しんではいなかったなあと思います。自分のいた狭い職種だけでなく多様な仕事と闘い方、そして、映像・音楽・川柳・漫画などさまざまな表現手段で見聞きすることは、それだけで気持ちが高揚してくるようです。そんなエネルギーを私の中に取り入れたいと思っています。

レイバーネット日本の会員になりませんか

現会員数 500名

ウェブアクセス 1日 2000

会員になれば、自分でニュースやイベント、お知らせを提供できます。レイバーネット日本は組合で個人で全国にアピールする絶好の場所です。

年会費 3,000円

郵便振替 00150-2-607244 レイバーネット日本
郵送宛先 〒173-0036 東京都板橋区向原 2-22-17-108

レイバーネット日本事務局

入会申込用アドレス apply@labornet.jp.org

電話 03-3530-8588 ファクス 03-3530-8578